■新発田市を紹介します

●市章

五階菱

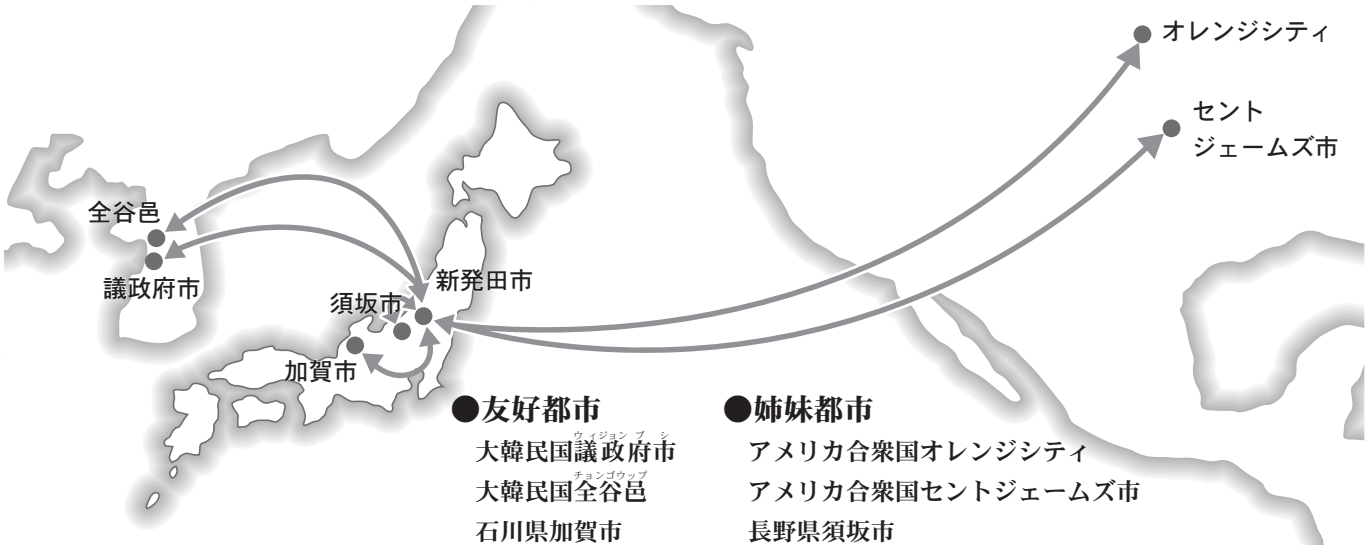
新発田藩歴代藩主溝口家の紋章を市章にしました

●市の花：あやめ

●市の木：さくら

●市の位置

北緯　37°47’17”～38°02’58”
東経　139°14’30”～139°40’55”
最北……藤塚浜　最東……東赤谷
最南……東赤谷　最西……佐々木



●友好都市

大韓民国議政府市（ウィジョンブシ）
大韓民国全谷邑（チョンゴウップ）
石川県加賀市

●姉妹都市

アメリカ合衆国オレンジシティ
アメリカ合衆国セントジェームズ市
長野県須坂市

新発田市は、越後平野（新潟平野）の北部に位置し、県都新潟市に隣接する都市です。面積 533.10㎢（平成 30 年 1 月国土地理院公表）、人口 9 万 8,401 人（平成 30 年 3 月末現在）です。

北西には白砂青松と形容される美しい海岸が広がり、南東の山岳地帯には豊かな自然景観に恵まれた磐梯朝日国立公園、胎内二王子県立自然公園があります。また、かつて東洋一といわれた堤桜を有する加治川の水系によって潤う肥沃な土地が広がっており、県内有数の良質米コシヒカリの産地でもあります。

江戸時代末期には 10 万石の城下町として栄えた新発田。現在も国の重要文化財となっている新発田城や足軽長屋など、城下町新発田の文化遺産をまちの随所にとどめています。そして平成 16 年には、城下町新発田の新しいシンボルとして、また、未来を担う子どもたちへの贈り物として、新発田城三階櫓･辰巳櫓が復元されました。

昭和 22 年に市制を施行してから、昭和 30 年に五十公野、米倉、赤谷、松浦、菅谷、川東の 6 村、昭和 31 年に加治川村の一部、昭和 34 年に佐々木村と合併しました。平成に入り、15 年 7 月 7 日に豊浦町と、また 17 年 5 月 1 日には紫雲寺町・加治川村と合併しました。

城下町の歴史と文化、全国的にも有名な月岡温泉、山から海までの豊かな自然など、たくさんの魅力を持つ新発田市は、「**住みよいまち日本一　健康田園文化都市・しばた**」を目指し、これからも発展していきます。

■各地区の紹介

れんぎょう

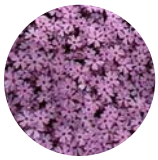
ムクゲ

きく

紫雲寺地区の花

さくら草

秋桜


芝ざくら

加治川地区の花

松

紫雲寺地区の木

桜

加治川地区の木

あじさい

豊浦地区の花

梅

豊浦地区の木

地区の花・木とは

合併後、新発田市の花・木はそれぞれ「アヤメ」と「サクラ」で統一されました。これにより、合併前の豊浦町・紫雲寺町・加治川村の花・木は、今後、それぞれの「地区の花・木」として伝承していくこととなりました。

■新発田市へのアクセス

JR	秋田方面から	羽越本線－新発田駅下車
	東京方面から	上越新幹線－新潟駅－白新線－新発田駅下車
	大阪方面から	信越本線－新潟駅－白新線－新発田駅下車
空路	新潟空港より車で 30 分 新潟空港→シャトルバス（約 20 分）→新潟駅	
車	北陸自動車道	関越・北陸自動車道－日本海東北自動車道－聖籠新発田 IC
	磐越自動車道	安田 IC －国道 290 号－新発田市

●日本海沿岸東北自動車道

区間は新潟～青森間 322km。昭和 49 年に新潟、青森、秋田、山形の 4 県で建設促進期成同盟会を結成、58 年には県北 24 市町村で同様の建設促進新潟地区期成同盟会を結成し、早期実現に向けた運動を展開しています。新潟県分は、平成 5 年 11 月に新潟～中条間 27.5km に施行命令が出され、8 年 8 月建設工事に着手。10 年 4 月には中条～荒川間 9.8kmの、同年 12 月には荒川～朝日間 20.4kmの施行命令が出されました。14 年 5 月には同自動車道の県内初の開通となる新潟空港 IC ～聖籠新発田 IC 間（日本海東北自動車道）の供用が開始。23 年 3 月には朝日まほろば IC まで開通しました。

●磐越自動車道

昭和 60 年 2 月、建設大臣から日本道路公団総裁に新潟～津川間の施行命令が出され、平成元年建設工事に着手、6 年 7 月には新潟－安田間の供用が開始されました。9 年 10 月には最後の未供用区間であった西会津～津川間が開通し、全線開通しました。現在は、新潟県と福島県、仙台をはじめとする東北地方、北関東など、たくさんの方に利用され、産業、交通の大動脈となっています。